

キャリア育成学科介護福祉コース専門科目カリキュラムマップ(令和2年度入学生1年次科目)

ディプロマ・ポリシーに示す共通到達目標(学修成果)

観点	到達目標(学修成果)
1. いのちの平等、尊厳性への気づき	あらゆる存在が個人の価値観を超えて絶対的な尊厳性をもって存在することを理解している。
2. 生かされていることへの感謝	生かされていることへの感謝の心を持ち、他を生かす活動を実践することができる。
3. 倫理観	人として守り行すべき道について考え、それを実践することができる。
4. 知識・技能	社会生活を営む上で必要な幅広い知識をもち、職業人として必要な技能を身につけ活用することができる。
5. 論理的で柔軟な思考と判断力	先入観や既成観念等に縛られず、論理的かつ柔軟に思考し判断することができる。
6. 自己表現力	自分の意見や考えを状況に応じた手段で適切に表現することができる。
7. 主体的な行動力	責任感・使命感をもって主体的に行動することができる。
8. 他者との協働力	社会を構成する一人の人間として、異なる価値観や背景を理解した上で連携・協働することができる。

ディプロマ・ポリシーに示すこども学科到達目標(学修成果)

観点	到達目標(学修成果)
A. 倫理観	対人援助の実践をするうえで、介護福祉士の倫理綱領を理解しており、人間の尊厳や人権を守ることができる倫理観を身につけている。
B. 知識・技能	高齢者や障害者の介護福祉実践に必要な知識や技能を身につけており、適切に活用することができる。
C. 論理的で柔軟な思考と判断力	援助対象者の状態に応じて想定される変化やさまざまな課題に対して、論理的かつ柔軟に思考し判断することができる。
D. 自己表現力	介護福祉実践において生じるさまざまなできごとについて学んだ知識を生かし、関係者に対して自分の意見や考えを状況に応じた手段で適切に表現することができる。
E. 主体的な行動力	地域社会や福祉施設などにおいて、自ら課題を発見し、目標を決め、解決に向けて主体的に取り組むことができる。
F. 他者との協働力	他職種役割を理解し、組織の一員として関係する人々の意見を聞き、調整しながら連携・協働してものごとに取り組むことができる。

カテゴリー	授業科目	授業概要	科目の到達目標	到達目標(学修成果)の観点番号・記号							
				凡例 ◎ DP達成のために特に重要な目標 ○ DP達成のために重要な目標 (一つの到達目標に◎と○一つずつを原則とする)							
				1	2	3・A	4・B	5・C	6・D	7・E	8・F
キャリア	キャリアガイダンス	この授業では、社会体験学習・実習および介護実習(実社会で働くことを体験する)から学んだことを基礎とし、様々な見方・考え方を学生に提供し、学生自身がこれからの人生をイメージし、力強くこれからの厳しい社会を生き抜くために必要な能力を少しでも身につけてくれることを期待する。	1. キャリア形成において短期的目標を明確に設定できるようになる 2. 業界、職種別に必要な力を理解し、それを身に付ける方法を見つける。 3. 主体的に意見を持ち、それを文章や言葉で明確に表現できるようになる。				○				◎
	キャリアデザインⅠ	本学が育成を目指している人材像、社会が求めている人材像、知っておくべき社会環境などについて把握し、自らのWORK(仕事)とLIFE(生活)についての考えを深める。1ヶ月ごとに自己の行動特性を分析・評価する。「高短キャンパスネット」を活用し、身近な人を対象に実施するキャリアインタビュー結果を受講生と共有し考えることで、自己理解を深め、キャリアをデザインする。	1. 目標を定めて何事にも取り組み、自己を向上させる姿勢を身につける。 2. 短期(在学中)、中・長期のキャリアをデザインするために必要な知識を修得する。キャリアをデザインできるようになる。 3. 生涯キャリアを描くことの重要性を認識できるようになる。				◎	○			◎
	キャリアデザインⅠ(留学生クラス)	外国人が多く在住する三重県の状況や留学生の就職状況、求められる能力について把握し、自分自身のキャリアについて考える。自分自身に関する作文を作成し日本語能力の向上とキャリアデザインの重要性に関する理解を深める。	1. 目標を定めて学習活動に取り組む力をつける。 2. 在学中から就職後のキャリアをデザインするために必要な知識を得る。 3. 将来の展望をえがく重要性を理解できるようになる。				○		◎		◎
コミュニケーション	日本語会話Ⅰ	場面に応じ、適切な言葉や文型を用いてコミュニケーションが取れるよう練習する。まとまった文章を読む練習を繰り返し、より速く内容を読み取る力をつける。復習する時のポイントやノートのまとめ方を学ぶ。	1. 日本語初級～中級で学んだ言葉、文型を用いて場面に応じた会話ができる。 2. 短文～中文程度の文章の内容を読み取ることができる。 3. 学習内容についての復習、時間外学習の習慣をつける。				○		◎		
	日本語会話Ⅱ	日本語能力試験N2相当の語彙を学習し、正確に使えるよう練習する。まとまった文章の内容を読み取り、自身の考えをまとめて述べる。また、他の学生の意見を聞き、自身の意見と比較する。	1. 日本語能力試験N2相当の語彙を習得し、適切に使うことができる。 2. 短文～中文程度の文章の内容を理解し、内容に関して自身の考えをまとめ、他の学生と意見交換ができる。 3. 学習内容についての復習、時間外学習の習慣をつける。						◎		◎
	日本語作文Ⅰ	日本語能力試験N2相当の漢字、文法を学習し、正確に使えるよう練習する。自身で間違いを訂正したり、より自然な表現に変える方法を短文作成練習を通して学ぶ。	1. 日本語能力試験N2相当の漢字の読み書きが正確にできる。 2. 日本語能力試験N2相当の文法を習得し、正確な使い方ができる。 3. 自身が表現した内容についてより適切な表現になるよう、推敲できる。				○		◎		◎
アクション	ボランティア実践Ⅰ	ボランティア活動に参加するために必要な知識と手続きを学習した後、学生が自らプログラムを立案、実施する場合とボランティア活動実施団体の企画に参加する場合がある。実施・参加プログラムごとに個人々々、グループごとに指導する。	1. 学内外で身に着けた得意技を広く社会に活かすことができるようになる 2. ボランティア体験活動の中で学び習得した技と心を生涯の糧として、豊かな人生設計に役立てようとする 3. ボランティア体験活動を通じ、自発性、社会性、無償性の行動を実践できるようになる				◎	○			
ゼミナール	ゼミナールⅠ	ヒト、命、暮らしを見つめなおすことを通じて介護福祉について考える。ゼミナールを通して自分で考え、発言し、行動する機会をつくり、体験を重ねるなかで、基礎力を養成する。	1. ヒト、命、暮らしを見つめなおすことを通じて介護福祉について自己の考えを整理することができる。 2. 介護福祉について自分で考え、発言し、行動できる基礎力を身につける。 3. 自己の考えや調べたことを発表できるようになる。				◎	○			
レクリエーション	レクリエーション理論	講義を中心に、演習やグループワークを通してレクリエーション・インストラクターに必要な知識を習得する。	1. レクリエーションを体験し、対象者に合わせたレクリエーションを実践することができる。 2. レクリエーション支援者として基本的なコミュニケーションの重要性を理解している。 3. レクリエーション支援の特色を理解している。				◎		◎		○
	福祉レクリエーション論	レクリエーション支援者として「遊び」を意図的計画的に活用する考えやプログラム立案、支援技術について学ぶ。実技でさまざまなレク活動を体験し、理論で意義や価値についての専門的な知識をつけ、演習を通して相互評価しながら技術を身につける。また、コミュニケーションワークを通して、自分と対象者との良好な関係づくりや、対象者間のスムーズな交流促進に役立てるノウハウを学習する。	1. レクリエーション活動の習得 2. 効果的に活用する技術の習得 3. コミュニケーションスキルを身につける		○	○	○	◎		◎	◎
	現場実習	レクリエーション各科目で学習した理論と実技をもとに、レクリエーション協会主催の事業、地域の子供会活動、高齢者や障害者へのボランティア活動等に参加する。地域社会の人々と交流を重ね、スタッフやリーダーとして積極的に支援できるように取り組む。	1. 地域で行われるレクリエーション事業の実習を通じ、楽しむことの大切さを理解している。 2. ニュースポーツやレクリエーションゲームを主体的に実践することができる。 3. 実践後は振り返りを行い、期日までにレポートを提出できている				◎		◎		◎
人間関係Ⅰ	人間関係の形成やコミュニケーションの基礎について、心理学やカウンセリングの理論などを学習する。また、回想法、リアリティオリエンテーション法、ヴァリデーションセラピー等の理論を通して、様々な視点からの関わりを理解し、技術を学ぶ。	1. 高齢者との対人関係におけるコミュニケーションの重要性と方法が理解できる 2. 個別相談援助についての基礎的理解ができる						◎	○		

人間と社会		また、アドバンスド・ケア・プランニングについて自らの考えをまとめることで、高齢者との話し合いの重要性を学ぶ。	3. アドバンスド・ケア・プランニングの重要性を理解できる。	○				◎				
	生活と福祉	介護専門職の視点から「生活と福祉」について考えながら、介護の支店から必要とされる生活支援について、テキスト理解と講義で紹介する実際の実践や事例等を踏まえながら、ともに考え学びを深めてゆきます。	1. 生活と福祉について、身近なところから関心を抱くことができる。 2. 生活と福祉について、社会との関係性の中で、自分たち自身の問題として身近なところから関連付けながら考えることができる。 3. 介護専門職として、生活と福祉について、自分のことばで考えながら説明することができる。	○	○	○		◎	○	○		
	ボランティア論	現代社会でボランティアが担う役割と期待されるボランティア像のデザイン化とボランティアでない人と実現し難い問題解決の能力を磨く	1. 国際社会、地域社会が抱える問題を分析理解する。 2. ボランティアに期待されている事柄を分析理解し、活動に移す。 3. 社会貢献できる知識・技能の活かし方を気づかせ実践に移す策を構築す					○	◎			
	生活文化	日本の文化には仏教が深く影響を与えているところがある。柳田國男の文化の諸相を見、知る視点を通して日本人の衣・食・住の生活文化の諸相とそれらの特徴をうかがいつつ、衣食住の他日常生活、年中行事、生活様式などに仏教がどの様な形で浸透しているかを学ぶ。ノートをしっかりとって日本文化に対する理解を深め、視野を広げる。	1. 日本人の衣・食・住の生活の文化の諸相を学ぶ。 2. それに与えた仏教の役割を学ぶ。 3. それを通して日本の文化、日本人の生活文化の一端を学び知る。		◎						○	
介護概論	「介護」のイメージを膨らませていくよう、身近な出来事から考えていく。「介護を必要とする人」が主人公であることを理解し、「生活者の視点」から物事を見ていくよう学ぶ。ノートをしっかりとって整理しながら自ら学びをまとめ、後に活用できる手法を身につける。	1. 介護福祉士を取り巻く社会状況から、介護福祉士に求められる社会的役割について知る。 2. 利用者本位の介護サービスを提供する専門職として、基本となる理念、理論、知識を理解する。 3. 各介護専門科目、介護実習等に役立てられる基礎力を身につける。					◎	○				
老人のくらし	時代背景と生活文化、衣・食・住の変容を学ぶことで、今を生きる高齢者の昔の生活状況を理解し、尊敬ある暮らしを支える生活空間のあり方とケア職の関わり方、高齢者の住まいとしてのさまざまな介護の場の特徴とケア職の関わり方を理解できるように講義形式ですすめる。高齢者のくらしを個別にケアためにケア職が大切にしなければならない視点と、その方法として24Hシートの作り方や使い方を理解できるようにワークショップ形式ですすめる。	1. 生活歴と生活文化の変容を理解する。 2. 生活空間とさまざまな介護の場を理解する。 3. 高齢者のくらしを個別にケアする方法を理解する。		◎	○				◎			
くらしとレクリエーション	介護を必要とする高齢者・障害者のレクリエーションを生活やくらしの観点から捉えるための学習。主に音楽・クラフトと書写・絵手紙の分野を取り上げ、実技演習を通して高齢者や障害者のくらしに応じたレクリエーション支援の方法と技術を身につける。また、楽しさや心地よさを活用して人々の生きがいづくりを支援する基礎的な理論を学ぶ。	1. くらしの中での介護とレクリエーションの関係について理解する。 2. レクリエーション支援の方法と技術を身につける。							○	◎		
コミュニケーション技術	コミュニケーションの果たす役割を理解した上で、生活機能の低下した利用者やその家族への関わり方、また、多職種協働を実現するためのコミュニケーション等に学びを身につけるよう基本的な話の聴き方に気づけるよう演習を重ねる。	1. 介護福祉実践におけるコミュニケーションの役割を知る。 2. アクティブ・リスニングのしくみを知り、活用できる。 3. 利用者やその家族に関わる際の原則や感情コントロールについて理解する。					◎			○		
レクリエーション援助法	様々なレクリエーションアクティビティを体験しながら、レクリエーション実技の基礎技術や援助方法が身につくように演習を行う。その過程で「自分らしさ」「その人らしさ」を活かしたコミュニケーション方法について学ぶ。	1. 援助を必要とする人の「生活を豊かにする」ための表現力や援助方法、コミュニケーション技術が展開できる。 2. 介護現場で個人または集団で楽しめるレクリエーションを実践することができるように、レクリエーション財について知る。					◎			○		
生活の理解Ⅱ	被服の役割と機能を理解し、被服や寝具類の素材・品質・安全性など実習を交えて学習する。高齢者や障害者にとっての快適で安全な衣生活について理解を深める。学習した家庭生活の基礎理解をもとにして具体的な日常生活の支援を考える。	1. 被服生活に関する基本的な知識と技術を理解する。 2. 高齢者や障害者の被服に関する配慮を理解する。 3. 高齢者や障害者の自立・自律を尊重した衣生活支援を実践する力を高める		○				◎				
基礎生活支援技術Ⅰ	利用者の生活上の課題を見極める視点を養う。自立に向けた環境整備、入浴、装い、車いす操作のための知識と基本的技術を演習する。	1. 人間の尊厳を尊重し、潜在能力を引き出し自立に向かう視点を持った適切な介護の知識・技術(環境整備、入浴、装い、車いす操作)を知る。 2. 環境整備、入浴、装い、車いす操作に関する基本的技術を身につける。					○	◎				
基礎生活支援技術Ⅱ	利用者の生活上の課題を見つめる視点を養う。自立に向けた基本的な身体動かし方や排泄、移動等のための介護の知識と基本的介護技術を講義、演習を通して学ぶ。	1. 尊厳や自立の保持と環境整備の重要性を理解している。 2. 排泄、移動に関する基礎的な介護の知識と技術が身につけている。		◎	○			◎	○			
基礎生活支援技術Ⅲ	利用者の生活上の課題を見極める視点を養う。自立に向けた食事支援の知識・技術、装いのための技術(主に和式寝巻)、睡眠の意義、安眠への援助の演習をする。また、介護職が行うマッサージの技術についても学ぶ。	1. 人間の尊厳を尊重し、潜在能力を引き出し自立に向かう視点を持った適切な介護の知識・技術(食事支援・和式寝巻の交換・安眠への援助等)を知る。 2. 食事支援・和式寝巻の交換・安眠への援助等に関する基本的技術を身につける。		◎					○			
応用生活支援技術Ⅰ	運動機能障害の原因疾患について理解する。また、利用者の状態や状況に応じた介助の留意点と援助方法を学ぶ。	1. 運動機能障害を引き起こす疾患を理解し、特性に合わせた介護が実践できる。 2. 高齢者や障害者の尊厳保持を踏まえ、自立・自律を尊重する心が身についている。 3. 福祉用具を理解し、安全に介護ができる技術を身につけている。		◎		○						
応用生活支援技術Ⅱ	①初歩的な手話の実技と聴覚障がい者福祉の基礎 ②障がい当事者による講義と実技	1. 聴覚障がいや手話に対する知識と理解を深める 2. 手話で自己紹介ができる 3. 手話で日常会話ができる					◎	○				○
介護過程演習Ⅰ	まずは、介護過程の基本視点から、利用者の生活支援の中での介護過程の必要性およびその活用方法について学ぶ。	1. 利用者の全体像と生活課題をとらえることができる。 2. 介護過程のプロセスが理解できる。 3. 介護過程の展開が理解できる。		◎					○			
介護過程演習Ⅱ	介護過程展開の各段階を理解し、実践に生かせる個別援助計画を立案するための基礎を学ぶ。介護実習Ⅱに備え、その科目で行う具体的な取り組みについての方法を身につけ、自ら記録できるよう指導する。	1. 介護過程展開のプロセスを習得する。 2. 介護過程の基盤になるICFの概念・枠組みがわかる。 3. 介護過程の各段階を記録物に表現できる。							○		◎	
介護総合演習Ⅰ	介護実習の意義や介護実習Ⅰの位置づけを認識し、利用者の生活について理解を深める。さらに、演習を通して、基本的な介護技術を確認しながら、実習Ⅰに臨む準備を行う。	1. 2年間の実習全体の流れや、実習の意義と重要性を理解することができる。 2. 記録の重要性を理解し、客観的思考を意識することができる。 3. 実習Ⅰの自己目標を明確にする			◎	○						◎
介護総合演習Ⅱ	演習を中心に、介護実習Ⅰの振り返りと介護実習Ⅱに向けた準備を行う。	1. 介護実習Ⅰを振り返り、自己の課題を明確化できる。 2. 介護実習Ⅱの内容と到達度を理解し、目標を設定して実習に臨む姿勢が						○	◎			
介護実習Ⅰ	利用者の生活の場であるさまざまな介護福祉施設の概要を把握し、利用者・家族とのコミュニケーション実践を通して対象	1. 高齢者、障害者とのコミュニケーション能力を高める。 2. 挨拶など基本的なマナーが理解でき、実践できる。 3. 施設の概要が理解でき、実習生としての学びの姿勢が取れる。						○		◎		○
	特別養護老人ホーム、老人介護保健施設での実習において、施設で生活している高齢者を理解	1. 施設のケアプランに基づいた基本的な生活支援を理解でき、支援方法を考え							○	◎		

介護実習Ⅱ	<p>目について、施設で生活している高齢者に対し、個々人それぞれのニーズに合わせた介護の必要性を理解する。 また、介護実践が展開できるようにする。</p>	<p>2.多職種との連携を通じ、チームの一員としての介護福祉士の役割について 3.受け持ち利用者に必要な介護計画を立案し、介護実習Ⅲに繋げられるよう</p>	<p>○</p>	<p>◎</p>
人間発達の理解I	<p>人間発達の基礎知識と発達課題を乳児期から老年期の生涯発達を通じて理解する。加えて、老年期を中心に心理医学的側面から理解し、客観的見方と受容姿勢を学ぶ。</p>	<p>1. 乳児期から老年期までの発達の概要が理解できる。 2. 老時期の心理医学的な側面の発達を理解する。 3. 老年期の人に対して客観的評価でき、受容姿勢を身につけることができる</p>	<p>◎ ○</p>	<p>◎ ○</p>

こころとからだ	人間発達の理解Ⅱ	高齢者の心身の変化や病態を理解するための医学・医療に関する知識を習得する。	1. 高齢者に多い症状、疾患の特徴を理解する。	○			◎												
			2. 高齢者に多い症状、疾患とその留意点について理解する。			○	◎												
			3. 介護を要する高齢者によくみられる病気・病態について介護者の視点から理解する。				◎						○						
	認知症の理解Ⅰ	教科書「認知症の理解 最新・介護福祉養成講座13」(第1～2章)の重要事項を中心に、プリントを用いて認知症の患者の特徴や心理状態の基礎を講義する。	1. 神経解剖学、神経生理学を基礎として、認知症の患者を理解するための医学、医療に関する知識を習得する。				◎	○											
			2. 認知症の患者を理解するための心理学的知識を習得する。				◎	○											
		3. 認知症の患者を理解するための歴史的・社会的な背景を理解する。				◎	○												
	心と身体Ⅰ	人体の構造・機能の学びを踏まえ、その根拠をもって利用者の尊厳ある生活支援が提供できるよう学習する	1. 利用者のこころとからだのしくみが理解できる				◎		○										
			2. 利用者の心身機能及び障害を理解することができる。				◎						○						
			3. 尊厳をもって安心・安全な生活支援ができる知識を養う				◎												○
	心と身体Ⅱ	人体の構造・心身機能の学びを踏まえ、その根拠をもって利用者の安心・安全かつ尊厳ある生活支援が提供できるように学習する。	1. 人のこころとからだのしくみが理解できる。	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			2. 利用者の心身機能および障害を理解することができる。	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			3. 尊厳をもって安心・安全な生活支援ができる知識を養う。	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	心と身体の医学Ⅰ	各項目に従い、基本的な人体の機能を理解した上で、老化・障がいに伴う変化を把握する。さらに生活場面と関連づけて、介護の基本的方法について具体的に理解して、手技についても実践を交えて体得する。	1. 人体の解剖学的構造・生理学的仕組み・運動機能・精神機能について十分に理解する。	◎	○														
			2. 老化や障がいに伴うそれらの変化について理解する。	◎	○														
			3. 介護者としてどの様に老化や障がいに応じて支援すれば、介護される人の尊厳を保ちながらケアできるかについて理解し、よりよい介護を目指す態				◎	○											
医療的ケア	医療的ケアⅠ	医療的ケアの意義・目的、安全な医行為への基礎知識と留意点を学ぶ。	1. 医療的ケアに必要な専門的知識が修得できる。	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○						
			2. 安全かつ適切な医療的ケアが実施できるための基礎知識を修得する。	○	○	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○						
			3. 医療的ケアに必要な他職種の役割を学び、その連携の必要性が理解できる。	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	○	◎						